

認知症を理解し、 今後の生活に備えよう



令和4年7月現在、多久市の高齢化率は36.6%と高く、多久市民の約3人に1人が65歳以上の高齢者となっています。老いとともに増えてくる認知症。認知症を正しく理解し、今後の生活に備えましょう。

認知症の始まり



「あれ？」今何しようとしてたっけ？

「あれ？」どこに置いたかな？ など

日々のちょっとした「あれ？」から始まります

この段階で予防の取り組み（栄養バランスの良い食事と適度な運動）を始めると改善することがあります。

認知症と加齢によるもの忘れの違い（一例）

	認 知 症	加齢によるもの忘れ
体験したこと	すべてを忘れている 例) 朝ごはんを食べたこと自体	一部を忘れる 例) 朝ごはんのメニュー
もの忘れの自覚	ないことが多い	ある
探し物に対して	誰かが盗ったなどと、 他人のせいにする	自分で見つけようとする
日常生活への支障	ある	ない
症状の進行	進行する	極めて徐々にしか進行しない

何かおかしいと感じたら早く受診を！

認知症は早期発見、早期対応が大切です。何かおかしいと感じたら、出来るだけ早く専門の医療機関を受診しましょう。

どうして？

☐ ほかの病気の可能性もあるから

☐ 薬物療法や非薬物療法によって進行予防ができるから

☐ 症状が軽いうちに今後の生活の準備ができるから

認知症の薬は、錠剤、ゼリー、貼るタイプなどさまざまです。



「おやっ？」と思ったときには、地域包括支援センター（☎75-6033）にご相談ください